



「黄金の国」に思いをはせて

おおふなと 大船渡市長(岩手県) 甘竹勝郎
Katsurou Amatake

はじめに

黒潮と親潮が交わる世界に冠たる三陸漁場、リアス式海岸が織りなす天然の良港とダイナミックな景観。

わが大船渡市は、東北地方にあって、太平洋に面し、古くから「海」とともにその歴史を刻んできました。

そしてもう一つ、大船渡市を中心とするこの地域一帯は、全国でも有数の産金地帯だったのです。

市長出前講座

私はかつて、県立高等学校の教師として歴史を担当していました。教壇に立つ傍ら、折を見ては日本国内の歴史の遺産を見て回りました。市長に就任した今でも、時間を見つけて全国の歴史資料に興味深く拝見しています。各地に残る古くからの「たからもの」を実際に自分の目で見聞きし、また、新しい史実を発見することはとても楽しいひとときです。

「市長さんの趣味はなんですか」とよく聞かれます。私は「第一の趣味は仕事であり、第二の趣味は歴史探訪です」と即座に答えます。

私は公務の合間をぬって、年に何度か市内各地域を回り「市長出前講座」を開催しています。対象は、小中学生、高校生、

金が発見されたのが当地方であり、日本最大の産金地だったことがわかってきました。

つまり、平安の世、栄華を誇った平泉文化を支えていたのは、わが大船渡市を含む気仙地方の産金だったという史実が浮かび上がってくるのです。

こうした歴史絵巻を裏付ける事実がほかにも残されています。この地方には「金(きん)・金野(きんの)・こんの」という姓が多く見られるのです。これは、金山開発の功により、初代気仙郡司が「金」姓を賜ったことに始まるとされています。

「黄金の国ジパング」伝説

ところで、マルコポーロは「東方見聞録」で、「その宮殿の屋根は全部黄金でふかれており、部屋の床は4センチの厚さの純金で敷き詰められている。窓さえ黄金でできている」と記し、「黄金の国ジパング」伝説を後世に伝えました。



大船渡市内に残る金山跡地

女性団体、観光ボランティアの皆さんと、多種多彩です。時には「市長さんの話、聞きたい」とのリクエストもあり、時間の許す限り、それに応じています。私の講演のテーマ、それはもちろん、大船渡の歴史です。

中尊寺金色堂と黄金気仙

天治元年(1124年)、奥州平泉の藤原清衡は、争いのない平和な世界の構築を目指し、20年の歳月をかけて阿弥陀堂を建立しました。それは、屋根から柱、床に至るまで、すべて金で覆われていました。皆さんよくご存知の平泉中尊寺金色堂です。

その建物の絢爛豪華なさまは、はかり知れない見事なもので、お堂全体があたかも一つの工芸品のようでした。ヨーロッパの冒険家マルコポーロは、その著書「東方見聞録」の中で、「宮殿の豪華さは全く想像の範囲を超えている」と記しています。

ところで、中尊寺金色堂に使われた金は、どこで産出されたか。万葉の歌人大伴家持は、その鍵となる歌を残しています。「すめろぎの 御代栄えんと東なる み

その後、さまざまな冒険家たちが黄金の国ジパングを目指して大航海に出ました。かのコロンブスもその一人。黄金の国に向かって船出したコロンブスは、1492年、新大陸を発見したのでした。コロンブスにとって、それが第一の目的ではなかったのですが、それにしては、気仙地方の産金と平泉金色堂の建立、そして、黄金の国を目指したコロンブスのアメリカ大陸発見。そこには、ふしぎな因果が歴史の中に隠されています。

教師時代にタイムスリップ

先日、市内の小学校で「市長出前講座」を開催しました。たまたま私の話を聞いて



市長出前講座の一場面

ちのくの山に 黄金花咲く(万葉集18巻) 「すめろぎ」とは、天皇(国)を意味します。

歴史書をひも解くと、東北地方の北上山地一帯では、広範囲で砂金鉱床が発見されており、「源平盛衰記」では、わが大船渡市を含む気仙地方から多くの金が産出されたことが記述されています。事実、今でも本市には数多くの金山跡が残っているのです。

いろいろな調査を進めると、日本最初の

ていた父兄の中に、私の高校教師時代の教え子がいたのです。後日、その教え子から手紙が届きました。「久しぶりに先生の『アマタケ節』を聞きました。30数年前の日本史の授業にタイムスリップしたような気持ちでした。」「私が歴史に興味を持ったのも甘竹先生のおかげです。私の子どもも私に似て、大の歴史好きになりました」

私自身も、生徒たちの前で黒板にチョークを走らせながら熱弁をふるった時代を思い出しました。教師冥利に尽きる教え子からの手紙を読んで、一人悦に入っている今日この頃です。

当時の東北地方の産金地帯

